

主任 川村 弘子

昨年秋に会場園としての依頼を受けて以来 8 ヶ月間、いつも頭の中には『学会』の二文字があり、職員が心をひとつにして取り組んできました。今回の研究発表で取り上げた「保育年表」は平成 13 年度から作成しているもので、今年で 11 年目を迎え、ちょうど節目の時期でもあったと思っています。こうした機会をいただいたお陰で、園内研修を重ね、その意義を再確認すると共に今後の取り組み方についても職員間で共通理解をすることができました。



私は幼稚園に勤めて今年で 32 年目を迎えます。ずいぶん長いな...と思われそうですが、実は新任だった頃が、ついこの間のこのように思い出されます。本当に月日の流れるのは早いものです。先日、園長先生に「かわむら先生はあと何年？」と聞かれて、どきっ！としました。あと何年勤められるかなんて考えたことがなかったのです。むしろ考えたくもないことでした。

しかし、避けては通れないことであり、これからは逆算しながら有意義な毎日を過ごしていかなければいけないと思っています。



学会は私にとって負荷をかける経験でした。ごく当たり前に毎日を過ごすこと、ゆとりある生活をするのも大切ですが、時にはちょっと大変なことや苦しいこと、悩むことにも直面しながら自分を高めていく姿勢が必要だと思うのです。目標に向かって取り組み、充実感や満足感を味わうことは大人にとっても大切な体験であり、新たな目標に向かって頑張る気持ちは忘れてはいけないものだと思います。そうした心がきっと子ども達にも伝わり、目標が達成した時、一緒に喜んだり、褒めたり、認めたりできる保育者であり母親でいたいと思います。

今回の学会に際しては、多くの方々のお借りして、園の環境や内容などを一層充実することができました。皆様のご協力とご理解に深く感謝致します。ありがとうございました。



こどものつぶやき

そうたらう「先生って何歳？」

ゆづき「しわくちゃだからきつとおばあちゃんだよ」

そうたらう「はちじゅうごさい？」 え～っ、まさか...



虫さされのあとが「かゆい」と事務所に薬を塗りにきて...

き ら「2 ひきにうたれた！」(2 か所刺されたということかな)

げんきっこ

NO.3
2011.6

岐阜聖徳学園大学附属幼稚園

梅雨明けが待ち遠しいこの頃、茹だるような暑さには水遊びが一番であり、全身で水の感触を味わいながら遊ぶ子ども達の姿が生き生きとしています。早いもので 1 学期もあと 1 カ月となりました。この 3 カ月の間に子ども達は実に多くのことを吸収し、友達と一緒に生活すること、遊ぶことを楽しむことができました。友達の名前や楽しかった経験がきっとご家庭でも聞かれることでしょう。

子ども達の話に耳を傾けながら、幼稚園での生活を思い浮かべていただけたらと思います。これからも主体的に園生活が送れるよう私達も精いっぱい子ども達を支えていきたいと思っています。



<子どもの姿> みんな大好き！プールあそび

年少は芝生のスプリンクラーや園庭のプールで水の感触を楽しみ、年中・年長は広いプールで全身を使って遊んでいます。



ビート板につかまって泳いだよ



水あそびっておもしろいな



附属小の 5 年生と年長の七夕交流会を行いました



田中 亜矢

我が家にはこの春入学した小 1 の息子と、年少の娘がいます。娘は昨年 9 月から未満児クラスに入園し、お兄ちゃんと半年、一緒に幼稚園へ通うことができました。初めの 1 カ月は不安で不安で...。毎日お兄ちゃんのクラスへ行き、イスを出してもらい過ごすことが多かったようです。でも、お兄ちゃんがいる安心感からなのか徐々に幼稚園にも慣れ、楽しく過ごせた半年でした。ところが...お兄ちゃんが卒園。一人で通うことになり、しばらくは寂しくて園で泣いたりしていました。



お兄ちゃんも一緒に...。慣れ親しんだ幼稚園生活から小学校の生活へと変わり、未だ落ち着かない様子です。朝、グズグズしている子供達に「早く！早く！」という言葉は何回言うのでしょうか。二人を送り出してから思うのです。ああ、また今日も怒ってしまったと...。反省の毎日です。



最近よく、子供にとって理想の母親はどんな人だろうか？と考えます。小さい頃の自分はどんな場所で安らげたのかを思い出してみました。辛いこと、悲しいことがあった時、私はよく母親に抱きしめてもらい、大きな胸でたくさん泣いていました。そうすると元気になれたことを思い出します。同じように安心できること、私は子供たちにしてあげて

だろうか？ある時、気がついたのです。それからというもの、毎日必ず抱きしめ「今日も頑張ったね！」「大好きだよ！」と声を掛け、目を見てゆっくり話を聞くように心掛けています。イメージは聖母マリアです。いつもは恥ずかしがってすぐに逃げ出す息子ですが、不安なこと、心配なことがあると私の膝の上で自分の気持ちを話してくれます。

娘は小さい頃から、隙あらば膝の上の上ののってくるくらい今でも抱っこが大好きです。私は娘の「ぎゅっとして！」という言葉が大好きで、ぎゅっとすると私も子供たちもお互いから元気をもらえるような気がしてきます。ぬくもりと同時に、心の中の思いも伝わり合えるような気持ちになります。この安らぎが子供たちの生きていく力、元気につながればよいなと思っています。

この先、いろんなことがあると思います。辛いとき、悲しいとき、色々なことを話したい時に受け止めてあげられる大きな胸でいたいと思います。そして、いつでも安心できる場所を作って待ちたいと思います。



今日は、元気に帰ってくるかな？どんな話を聞かせてくれるかな？毎日、子供たちが帰ってくるのが待ち遠しいです！